■ グループ紹介

三井東圧化学株式会社

合併20周年の記念すべき年

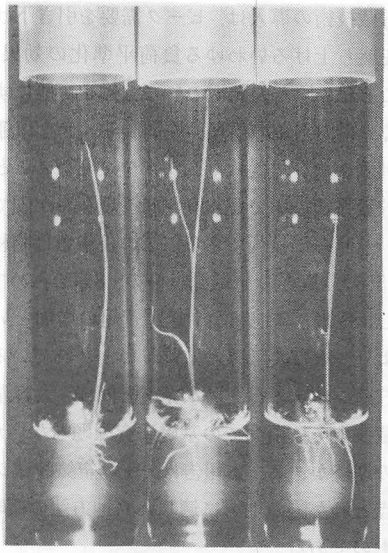
当社は，農薬・染料など有機合成技術を得意とする三井化学工業㈱とメタノール・尿素など大型プロセス技術に優れる東洋高圧工業㈱が，昭和43年10月に合併して誕生し，本年20周年を迎える総合化学メーカーです．昭和30年代からのあいつぐ石炭化学から石油化学への転換の嵐の中で，石油化学に進出するために両者は合併をし，大阪泉北地区に石油コンビナートを完成させることによって，名実ともに総合化学としての体裁を整えました．当時化学工業は，エチレン，アンモニアなど量産効果を追求することが，利益をもたらすものであるとの考えの基に設備の大型化投資を繰り返しました．その結果として，業界の過当競争体質が生じることになりました．昭和48年と50年代央の二度にわたるオイルショックの洗礼を受け，安価な石油に依存していた化学工業は，根本から構造改善を迫られました．産業構造改善臨時措置法に則った設備廃棄，新増設の制限などのほか，輸入原料を製品化していては，汎用製品では早晩資源国に対抗できないので，付加価値の高い独自性のある製品の開発を指向することとなりました．

電子情報材料，新素材，バイオテクノロジー分野に挑戦

当社では，早くからこのような事実を冷静に見つめ，製品の差別化策として，プリント配線基板，半導体製造用ガス，ハイブリッドIC，太陽電池，光ディスクなどの電子情報材料分野，ガスバリアー性にすぐれるバレックス樹脂，熱可塑性を特徴とするポリイミド樹脂，ウレタン原料を用いた新アラミド繊維・プラスチックレンズモノマー，押出法フェノールロールなどの新素材分野の開発・上市に積極的に取り組んでおり，既に大きな成果を挙げています．またライフサイエンス開発部を設け，バイオテクノロジーを駆使したハイブリッドライス，飼料用必須アミノ酸の開発，制ガン剤，TPAなどの医薬，生体吸収ポリマーなどの医療材料の革新技術に積極的に経営資源を投入しています．

中期経営計画策定，機能製品の比率拡大を目指して

当社では，63年度を起点とし，65年度を目標年度とする中期経営計画を策定いたしました．内容は，汎用製品と機能製品の付加価値額の比率を現在の62対38から55対45にすることによって，市況に左右されにくい企業体質の構築を図ること，新規製品の研究開発をスピードアップし，65年度には売上高の25％を占めることを目指すこと，一層の研究開発及び営業・開発人員の強化とエネルギーなどの省力化・FA化に努めることを骨子としています．当社は，ここ数年汎用樹脂の集約化，関連・子会社の統廃合など企業体質の強化に取り組んできましたが，昨年度で完了しましたので，今後は，自社の長所を活かし，国際的に通用する技術と誘導品の開発を目指し，21世紀を展望した施策に全員のベクトルを一致させ，さらなる飛躍を図りたいと考えています．



写真説明　細胞質融合で得られたサイブリッド（細胞質雑種）植物体
イネの雄性不稔種と栽培種を細胞質融合させた後，植物体を再生することに成功．通常の細胞融合で作られる雑種と異なり，優秀な形質を有する品種の細胞質にのみ新しい形質を導入する新品種の創出技術を確立．

所在地　〒100 東京都千代田区霞ケ関3－2－5
（文責：研究開発管理部・広報室　上野新二）